

令和2年度前期学校評価分析

職員自己評価から

1 教育目標について

1学期は休校措置があり、通常の学校生活を取り戻すまでに時間がかかったが、学校教育目標については昨年度同様、概ね適切であったと評価できる。「自ら学びよく考える子ども」「思いやりがあり助け合う子ども」「健康な体でがんばりぬく子ども」の3つの柱についてもほぼ良好との評価である。今後も、児童の実態を確実に把握し日々の指導につなげていく。学習指導要領の改訂のポイントでもある「主体的・対話的で深い学び」を全職員で意識し、授業改善を目指していく。

2 教育課程・学習指導・特別活動・学校行事について

地域の特色を生かし創意工夫された教育課程が機能していると評価できる。学習指導については、児童の学習意欲を向上させるための指導法の工夫がより一層求められる。学習規律の確立、基礎的・基本的な知識や技能の定着、言語活動を通じた思考力・判断力・表現力の向上を目指し、校内研究や研修を通して授業の改善を行い、実践を積み重ねていく。

特別活動や学校行事については、感染症予防のため十分に行えなかったが、6年生を中心にあいさつ運動や委員会活動など、自主的な活動を進めることができた。2学期以降、学校や学級集団等への所属感を深められる活動を考えていきたい。

授業時間を確保し主要教科の学習を進める観点で、時間割の変更を行ったり、繰上日課を活用したりした。1学期の学習内容は概ね終えることができた。しかし、消毒作業等もあり放課後の時間が十分活用できなかった。教材研究、各種会議の設定、教職員のコミュニケーションをとれるように週日課を考えていきたい。

3 生徒指導について

全体的に良好と評価できる。単学級の組織であるため、何か課題に直面したとき、全職員で情報を共有したり、関係機関と連携したりすることで、早期の対応ができると考えられる。課題を抱えた児童については、全職員で支援をする体制を取っていく。「いじめ防止強化週間」として、テレビ放送での全校集会、各学級での指導を行った。2学期以降も継続的な指導を行っていく。

4 安全管理（防災・防犯など）について

概ね良好と評価できる。避難訓練や防犯教室は計画的に行われているが、非常事態が発生したとき、自らの危険を予測したり回避したりと、型通りの動きだけでは対応できないことも多い。普段から様々な危険に対してイメージしておき、その場に応じた適切な行動を取ることができる力の育成が必要である。

5 保健管理について

新型コロナウイルスの対応として、①健康チェックカードを利用した家庭での健康チェック、②登校時、児童玄関前での職員による健康チェック、③手洗い、マスク、換

気の徹底，④ソーシャルディスタンスの確保，⑤児童下校後，校舎内の消毒作業等を行った。また，保健だより等を利用し各学年に応じた指導を行ったことも，感染防止につながったと考えられる。2学期以降も緊張感を保ちつつ継続した指導を続けていく。

悩みを抱えた児童・保護者に対しては，スクールカウンセラーとの面談を適宜行うことで心身の安定につなげることができた。今後もスクールカウンセラーを活用していくことで早期の対策，継続した対応をとっていく。

熱中症対策としては，エアコンの活用，休み時間の利用制限などの対策を取ることができた。また，食物アレルギーの対応では，養護教諭を中心とし保護者，医療機関による個別対応の確認がなされ，職員共通理解のもと丁寧な対応をすることができた。

6 特別支援教育について

特別支援学級担任，交流学級担任，支援職員の情報交換が密に行われていることで，支援学級在籍児童は，落ち着いて学習ができています。本人，保護者の気持ちに寄り添いながら，個々のニーズに沿った教育活動を工夫していく。普通学級に在籍していて特別な支援が必要な児童に対しては，ケース会議を開き情報交換会を適宜実施してきた。学級担任が一人で抱え込むのではなく，組織として対応していく体制を構築していく。現状と原因，目標と対応策を明確にして，個々の児童について適切な指導・支援ができるようにしていく。

7 組織運営について

組織運営・予算ともに良好と評価できる。職員会議や終礼などの時間を有効に活用したことで，職員全体の共通理解を図ることができた。今後は，さらに有効に時間を活用することで，短時間で効果的な運営ができるようにしていく。

8 保護者，地域住民との連携について

学級担任からは，学年だより，連絡帳等で，学校での児童の様子を保護者に伝えている。しかし，家庭訪問や授業参観，職員参加の各地区での会合が実施されなかったため，保護者や地域住民の要望を十分把握することができなかった。電話連絡や学校ホームページ等を利用し，保護者との情報交換を進めていきたい。学校・家庭・地域が連携・協力し，子どもを育てていく体制づくりを行っていく。

9 施設・設備について

良好と評価できる。安全点検等の結果から，各担当で対応できる場所や業者対応を要する場所等，素早い処置を行うことで児童の学習や活動に支障のないように対応していく。

児童アンケートから

全21項目のうち，①と②を合わせた肯定的な回答で90%を超えたものが14項目であった。特に「学校は楽しい」，「勉強がわかる」，「文字や漢字，計算の仕方を覚えた」，「友だちと仲良くできた」，「嫌な意地悪なことはしない」，「係や当番の仕事ができた」，「道路をきちんと安全に歩けた」，「嫌なことを言われたり，からかわれたりする」，「暴力を振るわれて，辛い思いをする」，「遊びの時仲間はずれにされる」，「無視をされ

ることがある」に関しては、95%以上の児童が「できた」「ない」と肯定的に答えている。

「嫌なことを言われたりからかわれたりする」は5%、「一人ぼっちでいることがある」は6%の児童が否定的な回答をしている。「学校で困ったことや嫌なことを誰かに話せたか」(87%→81%)に関しては、昨年度より肯定的な回答が6%下がっている。教師や保護者が子どもの些細な変化を素早く受け止め、早期に対応できる体制を常に整えておく必要がある。安心できる学級づくりを心掛け、引き続き、児童の様子を全職員で見守り、いじめにつながるような兆候は絶対に見逃さないようにしていく。また、軽い気持ちのからかいでも相手にとっては心が傷つくのであるから、相手の立場に立って考えることのできるよう道徳の学習を中心に道徳性や思いやりの心を育てていく。

「外での遊びや運動」(92%→88%)、「本を読む」(92%→87%)、「自分から挨拶できたか」(97%→92%)については、肯定的な評価がそれぞれ5%ほど下がっている。コロナウイルスの対応による影響も考えられる。日々の指導や児童会活動を中心に、改善の方策を講じていく必要がある。

学習への取り組みについては、学習規律の確立、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着、言語活動を通じた思考力・判断力・表現力等の向上を目指して取り組んでいるところである。今後も校内研究等を通して授業改善に取り組み、わかる・できる・楽しい授業を目指していく。

保護者アンケートから

「友だちとの良い人間関係」、「学校は、励みになる場所であったか」は、それぞれ肯定的な評価が95%以上と高かった。1学期は、休校による影響を配慮し、子どもたちの心身の安定を第一に教育活動を行ってきた。今後も、学校と家庭が同一歩調で子どもたちの健やかな成長を支えていきたい。

肯定的な意見が多くなった項目としては、「自分からあいさつできる子ども」(86%)「早寝早起き朝ごはん」(86%)「安全への対応」(97%)がある。長期の休業期間中も含め、各家庭での指導の成果であると考えられる。また、「がんばり抜く子ども」「家庭学習の時間確保」「家庭学習の習慣化」についても向上している。家庭での協力体制と子どもの学習等への意欲が上がってきていることが推測できる。

一方、「文字や計算などが身についたか」(90%→85%)「よく読書する子どもに」(73%→68%)については、肯定的な評価がそれぞれ5%下がっている。1学期の授業内容や児童の学習定着度を分析し、指導方法の改善を図っていく。また、読書離れの傾向が見られるので、多くの本に触れる機会を学校、家庭で増やしていくことが必要である。「ながら勉強はしない」に関しては、肯定的な回答が78%、否定的な回答が22%であった。勉強中は、テレビやゲーム、マンガ、スマホなどは使わないといった家庭での約束を決める必要があると思われる。規則正しい生活・学習の習慣化を確立できるよう、学校と家庭が協力しながら取り組んでいく。